内郷村報

天法人則
ニ從順ナ
ルベシ

内郷村報の六大使命

一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
二、村内公私各機關の活動狀況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
三、本村社會事業の徹底を期す。
四、村内の善事美行を表彰し、且之を奬勵す。
五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
六、會餘力を以て、國民普導に當る。

先つ立候補者に獻言す

大内民惠

今日、何れかに展開すべき通路はなきものかと、何人も惱んで居つたのであるが、或はこの運動が、其端をなすにはあらざるなきかと、時に心大に期待せらるゝと同盡して、微力ながらも最善を献替努力せんと欲するものである。さて各方面に於ける、肅正運動のねらふ中心点を概觀するに、候補者の嚴選、買收の防止干渉の排除、取締の公平四項に要約され選擧人の自覺反省にあるを説く事は、殆と其軌を一にして居る。こゝに於て記者は、其一項たる候補者、特に來る立候補者の選擧に當面して、人々に對して、聊か微衷の存する處を、披瀝し、先つ候補者自身が、覺醒省慮すべきを献言しやうと思ふ。

之を從來の一般候補者や、議員に就いて觀察するに、其平常にあつて、政策は、自己の修養とか、人格面には更に無關心で、年か年中、年賀寒暑の挨拶、冠婚葬祭の祝賀警吊問、火事病氣の見舞、

五月七日、選擧肅正委員會令が發令せられ、それ〳〵各府縣に於て、委員會を組織せらるゝを見るや、世の多くの人々は、人間は神樣ではないのだから、幾らど正なる運動をした處で、其肅正なとは出來るものではないなどゝ、高をくゝつて冷笑的に之を見て居つたもの相である、爾來一ケ月間、世の推移を見るに、齋藤子を中心として、選擧肅正中央聯盟を中心として、三十余派の團體が之に合流し、振肅委員會全國神職會長等の會議を、何れも堂々と旗幟鮮明し、兎角圓滑の選擧を、縣議選擧に當面して、立候補者の人々に對して居つた。

内務司法兩當局も、相協調して、立候補せんとする人々に、徹底的に、法規の各條を、遵奉する趣旨を、説明し、選擧費の額を、忘れてはならぬ。殊に、公報に發表するのである。而して、徹頭徹尾、選擧に關する、法規を、細心の注意を拂ひ、其定額を、超過する事なき、所定の、選擧費を、一錢でも、超過したるものは、勿論、騷ぎまはるに、過ぎざるべく、命名して下さい、母子共元氣です。（五月二十五日夜）

慨はしき次第である。

こゝに於て記者は、縣下三萬の選擧有權者に向つて、以其自覺を促す前に、先つ約七十人（昭和六年には六十七人立候補）の立候補者に向つて、せんとする人々に、熟慮反省、過去を精算して、一路更生に、邁往せられん事を熱望に堪へぬのである。然らば其態度進路を如何にするべきかといふに、先つ諸子は、人として國民として其資格あり、否や、を省みること、次には其屬する政黨なり或は郷黨なり團體なりの推薦ある、に、立候補せざる、人、他を排して、出馬するが、如き、は固く、慎むべきである。

以上の順序徑路をとつて、先つ、立候補したならば、其政見政策を選擧公報を以て、發表する、と共に、選擧長は、若く、は推薦者の名に、於て、其區内の有權者に、向つて、通知し、巡回し、日程を、無料で、郵便を、以て、區内を、一巡したる趣旨を、報ずるのである。而して、立候補者は、選擧人の、自己の、面に、更に、政策を、明瞭に、定めて、發表するのである。

今日、選擧肅正委員會令が發令せられ、それ〳〵各府縣に於て、委員會を組織せらるゝを見るや、世の多くの人々は、人間は神樣ではないのだから、幾らど正なる運動をした處で、其肅正なとは出來るものではないなどゝ、高をくゝつて冷笑的に之を見て居つたもの相である、爾來一ケ月間、世の推移を見るに、齋藤子を中心として、選擧肅正中央聯盟を中心として、三十余派の團體が之に合流し、振肅委員會全國神職會長等の會議を、何れも堂々と旗幟鮮明し、兎角圓滑の選擧を、縣議選擧に當面して、立候補者の人々に對して居つた。

内務司法兩當局も、相協調して、立候補せんとする人々に、徹底的に、法規の各條を、遵奉する趣旨を、説明し、選擧費の額を、忘れてはならぬ。殊に、公報に發表するのである。而して、徹頭徹尾、選擧に關する、法規を、細心の注意を拂ひ、其定額を、超過する事なき、所定の、選擧費を、一錢でも、超過したるものは、勿論、騷ぎまはるに、過ぎざるべく、命名して下さい、母子共元氣です。（五月二十五日夜）

今日、何れかに展開すべき通路はなきものかと、何人も惱んで居つたのであるが、或はこの運動が、其端をなすにはあらざるなきかと、時に心大に期待せらるゝと同盡して、微力ながらも最善を献替努力せんと欲するものである。さて各方面に於ける、肅正運動のねらふ中心点を概觀するに、候補者の嚴選、買收の防止干渉の排除、取締の公平四項に要約され選擧人の自覺反省にあるを説く事は、殆と其軌を一にして居る。こゝに於て記者は、其一項たる候補者、特に來る立候補者の選擧に當面して、人々に對して、聊か微衷の存する處を、披瀝し、先つ候補者自身が、覺醒省慮すべきを献言しやうと思ふ。

之を從來の一般候補者や、議員に就いて觀察するに、其平常にあつて、政策は、自己の修養とか、人格面には更に無關心で、年か年中、年賀寒暑の挨拶、冠婚葬祭の祝賀警吊問、火事病氣の見舞、

五月十七日夜）

昨日は内郷村報、本日は御手紙並に四方叢書の一部、誠にありがたう御座いました。石龍師の御教訓も有り難く拜讀いたしました。物

驚かれる事と存じます。お父さんが來られる折、お母さん用の、十文のゴム靴、卷脚絆、手袋（軍手）をお願いいたします。後略

（五月十日夜）

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社說は子孫に對する遺言を兼ぬるものなり。

昭和一年一月一日發行

本紙定價一部金五錢一ケ年郵税共金四十八錢
寫眞版石城郡内郷村宮字宮澤二
發行所　内郷村報社
郵税發行者印刷人　右全所　振替仙臺八四二〇
大内民惠

印刷所　磐城郡石城郡平町一丁目二九
平活版所

察の貴ひ下げ、人事の斡旋各種團體の寄附御馳走等々に情實關係を結ぶ事に專念し、出來る丈廣範圍に沒頭し、資産のあるものは其を減らしつゝ、之なきものは、其からそれと、不正不德極まる利權をあさつて、其資金を得る事に憂身をやつし、買收はなれば、手段方法を擇ばざる底の、醜惡極まる運動をなすのである。而してそれを上手にやつてのけた者が所謂當選の榮冠？を獲ずである。但し申分なき例外は無きにしもあらず、比々皆然りとである。

識者は、縣下國家の選良と、縣議等（縣議士も同樣）に於ては敬意を表すれ、心中では不良なるが故に、一般申分ではあるが、縣下の選良たる、士も、代議士將たる、縣議士なし、申す、代議士、上なる、縣議士、は、不名譽、此一身、を、犧牲にして、我々は、思つて居る者が、國家の、大任を、全うし、得ざる、者が、一家を、修め、得ざる、者が、治國平天下の、大任を、全うし、得ざる、者が、選擧に、有權者に、向つて、故に、從來の、政界では、先つ、第一流の、人物は、德の、實際に、士や、そうした、汚泥の、中に、投ずる、ことを、潔しとしない、のである。

眞に、邦家の、爲に、

本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。

會餘力を以て、國民普導に當る。

村内の善事美行を表彰し、且之を奬勵す。

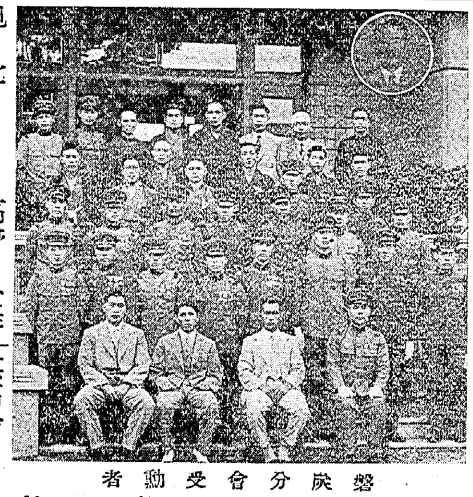
内郷村選擧肅正委員

勅令による選擧肅正委員會の本村委員は、不日其筋より任命せらるゝ豫定なるが聞く處によれば、左記六十名の由である。

永井茂次郎　三澤　義則
山崎　喜一　島田　兼吉
田中宇一郎　小松定治郎
上原　四郎　石橋　弘毅
佐川　芳松　新谷　彦資
薗邊　末造　小野　昇
加藤　丈夫　廣瀬　貞
生田　常弘　大越勝之助
金原喜一郎　竹島　廉平
金澤　爲喜　山崎佐市郎
鈴木　佐市　猪狩喜平治
湊　慶三郎　馬目子之松
長谷川　幾之介　志賀　留吉
田中　義枝　草野三千雄
大越惣一郎　高萩　佐重
久野藤二郎　金澤　慶一
齋藤　鶴吉　江尻　萬與
生田傳四郎　草野　末吉
山下喜代治　佐藤　三平
野木　力　山崎　五三
馬目　武重　赤土　興榮
福羽　堅三　松村　智清
宮下　秀貫　佐藤　一
堀　一郎　大内　民惠
柴田　正則　田口　淳三
高原　重吉　山崎　辰亥
佐藤久太郎　武藤　義造
菅波　忠治　大越　治七
山崎米太郎　濱崎善三郎
草刈長三郎　佐藤雅之輔
照山　時也　舟木　七郎
鈴木己美男　本橋　昇
深谷　精市
賜金
大和田百枝　菊地　幹
遠藤　忠義
未定
伊藤　信悟　笹原　仁吉
方波見捨男　濱中　勝美
笹越　泉　川島　實
高木　茂

磐炭分會受勳者

磐城炭礦在郷軍人分會では六月十六日淺野翁頌德館に於て、左記三十二名の受勳者を招待して祝賀會を擧行した。田中宇一郎氏來賓代表の祝辭を述べ、受勳者を代表して高野伍長が答辭を述べた。出席者八十三。



磐炭分會受勳者

高野　金作　吉田　丑三
黒澤市太郎　中塚　貞治
旭七　小貫　榮三　沼倉　榮三
功七　山野邊正直　渡邊　恂
旭八　笹原　守　松本　久雄
篠田　隆　桝沼　義雄
高山　喜重
瑞八
大河原　美津次　大津　朝男
荻谷　勝一　笹沼　政雄

宗像よし子刀自

炭礦主宗像啓治氏母堂よし子刀自は、七月十一日九十二歳の天壽を全うして逝去、同十四日瑞炭分會芳寺に於て、葬儀を行はれたが、德望高く交際も廣い同家のことゝて各方面よりの献花供物放鳥等夥しく、且つ其高齢にあやからんものと沿道十余町、全く人垣をきつて、近來稀に見る盛儀であつた。尚同家にては、弔問者數百名に對して、洩れなく紅白の餅と神酒とを配ると共に、追善供養の爲、左記の通り淨財を寄進した。金五拾圓、第三小學校。金五拾圓、本村助成會。金貳拾圓、峯根第三少年團。金拾圓、磐城新聞社。金拾圓内郷村報社。金參拾五圓（會葬したる小學六年生及少年團へ鉛筆一打つゝ）。

村會

六月十二日村會を開き、十年度歳入歳出追加更正豫算同特別税戸數割賦課額決定の二件につきて審議決定した。而して九年度歳入出追加豫算は合計金拾八萬六千九百七圓との事である。

託兒所好成績

東日社、淨土宗務所及本村助成會の聲援の下に、御厩阿彌陀寺に於て開催せられた、農繁期託兒所は、豫定通り一ヶ月間好成績を擧げて、六月二十九日其閉所式を擧行した。沼田村長田口山下兩方面委員阿部小高の諸氏參列盛會を極めた。主任は和田住職、保姆は高橋八重子和田てる子の二女史で、成績優良の故を以て、東日社より見事なる記念旗を寄贈せられたる由である

村議の視察

六月二十三日、本村々會議員諸氏は二組に分れ、自治産業等視察の爲、双葉相馬兩郡に出張したるが、得る處多大であつた由。

高坂女子青年會

同會第二回總會は、六月十六日淺野翁頌德館に開催、田中義枝氏の祝辭、赤土興榮氏の有益なる講演、猫八氏のおもしろき余興等ありて盛會を極めたる由。

高坂女子青年會第二回總會

◎本紙贊助金寄贈芳名

金拾圓　東京　渡邊　得男
金參圓　内郷　舟田　義隆
金貳圓　平町　諸橋　鐵彌
金拾圓　内郷　宗像　敬治
金參圓　樺太　武藤　富次

汗ばますからりとおはす老師哉　虚子

(第三種郵便物)

磐炭八分配當

磐城炭礦では、上下協力精勵の結果、本年度第一期に於て、十一月には本格的に出炭を見る運びに至達んとが、時

磐炭の新礦區

磐炭の出願に係る江名小名濱玉川に跨る七十二萬二千百坪、玉川鹿島江名小名濱

せら居つたが、青雲の志止み難く、警視廳巡査を志願し、好成績を以て採用され七月十四日出京した。

矢野恒太　服部宇之吉　序　大内民惠　著

教育制度改革概論

（四六版二一一頁　定價五十錢　郵税六錢）

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同枚擧に遑あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威
前京大總長小西重直博士
書を寄せて曰く、多年ノ御體驗ト實地ノ御試練ニ基ク眞摯遠國ノ大精神ヲ拜昧仕リ不思議感激ニ打タレ申候云々。

新興化學工業所

大内民惠

記者と同年の心友に大内齊茂といふ人がある。二本松藩士の家に生れ、小學校教員上等看護兵等の經

發行所　日本評論社　東京京橋三丁目
取次所　内郷村報社

磐炭八分配當

磐城炭礦では、上下協力精勵の結果、本年度前期に於ても、八分の配當を行ひ、三百余名の役員には、それ〴〵二ヶ月乃至五ヶ月の賞與金、四千余名の從業員には、洩れなく酒肴料を頒與した。

磐炭役員移動

新　舊
運輸課長　綴坑長　湊　慶三郎
綴　坑長　高坂坑長　三澤　義則
高坂兼任　住吉坑長　倉田龜之助
高坂住吉副第三坑長　小野　昇
第三兼任　町田坑長　長谷川　幾之介
高坂住吉首席事務　田中宇一郎
町田擔任　猪狩喜平治
高坂住吉擔任　井上惠助
町田坑　阿部惣重
勞務課　粒來宗吉
同高坂（新任）　飯田精一
同綴派出　坂本政次
礦務課茨城主任　樋口平久
勞務課　佐藤今朝治
同　松浦勝彌
同住吉派出　添田重之助
勞務課　長塚紋二郎
同宮澤派出　鈴木寅清
同住吉同　志賀保治
同綴同　岩崎惣次郎
依願解職　高野金作

十一月には本格的に出炭を見る運びに迄進んだが、特に林陸相の揮毫寄贈にかゝる協戮邁往の大旆を翳し理論より實行をモットウとして百六十人の從業員を軍隊式に訓練し、之亦斯界稀に見る良風をつくり、去る六月三十日には、安全週間を意義あらしむべく全員國防色の制服姿凛々しく小名濱に遠足を試みたる由である。

尚同坑では去る十二日田塲坂開坑に着手し、八月には社宅の落成を見、坑長新案、外剛内美名物長倉饅頭の普及をも圖りつゝあるとの事である。

協戮邁往の大旆下に活躍する長倉坑從業員

第二磐炭長倉坑

同坑では開坑以來、前川坑長石橋主任の熱烈なる精進によつて、着々成績を擧げ

磐炭の新礦區

磐炭の出願に係る江名小名濱玉川に跨る七十二萬二千百坪、玉川鹿島江名小名濱に跨る九十六萬六千二百坪植田山田に跨る九十五萬三千坪、植田山田に跨る八十三萬四千九百坪、合計三百四十七萬六千坪の試掘が此程許可になつた。

安全週間祈願

磐炭では、六月三十日町田高坂綴の各山神社に於て、安全祈願を行ひ、金坂グラウンドに集合、上原總指揮挨拶訓示後、社設樂隊を先驅として、全山の宣傳行進を行つた。因に各坑とも坑長を始め坑幹部多數之に參加した。

産業講演會

入山古河磐城三炭礦主催で六月三十日淺野翁頌德館に於て、氏家一郎氏の産業平和論、膳桂之助の我國産業の特殊性の有益なる講演があつた。聽衆四百余名の盛會であつた。

高野金作氏

より起し、兵に徵されては伍長に昇進旭七の榮譽を添し、入つては勞務課員として敏腕を振ひ、將來を囑目せらるゝし居つたが、青雲の志止み難く、警視廳巡査を志願し、好成績を以て採用され七月十四日出京した。衷心より其成功を祈る。

民政同志會

本村の同會では、磐炭菅原所長の公正なる明言を聲明し、十四十五日兩日に渉り、比佐代議士の議會報告時局批判の演說會を開催した。

修身講習會

本村各小學校教頭は十、十一日兩日、縣師範岡本教諭を講師として修身の講習をうけた。

染色講習

猪狩喜平治氏主催にて六月二十六七日の兩日、宮澤職員倶樂部に於て開講、講師は小野新町裁女校教師横山あき子女史で、會員二十余名、禊益する處多大であつた由。

高坂校同窓會

七月七日同校に開催、出席者四百名の盛會であつた。

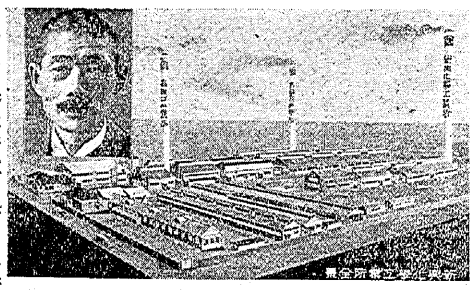
杉山氏の名譽

縣下射撃大會に於て、滿点二回の記錄をつくつた杉山今朝吉氏は、最近山形の聯合大會に於ても滿点で優勝、斯界に萬丈の氣を吐いて引き上げた。

新興化學工業所

大内民惠

記者と同年の心友に大内齊茂といふ人がある。二本松藩士の家に生れ、小學校教員上等看護兵等の經歷を有し、明治四十年三十歳、裸一貫出京して、夫人山本氏と共に拮据精勵、化學藥品の製造販賣を始め、爾來幾年前桐生高工島田教授の發明に係るゴムの硫化促進劑（從來英米獨佛より輸入したるもの今は氏によつて逆輸出）ゴム老化防止劑、寫眞藥品等を製造する一大工場を設立し、二合兄を始め、專門校以上の出身者十余名を使役して、世界的に活躍して職工八十余名を居る。



新興化學興業所と
所主大内齊茂君

のである。其資性雷擊にして磊落直情徑行更に邊幅を飾らず、開口一番呵々大笑する奇風あるを以て我等はカミナリと稱したものである。「視學」等であらうが、上官であらうが、將又御得意であらうが、現代佩々諤々敢て所信を拡げざる、高山彦九郎である。しかもその武士的熱誠が、終に君をして今日あらしめたのである。記者が最近日本橋に其堂々たる店舗を訪れたるに、夫妻揃ふて歡待到らざるなく、親しく板橋の工場に同道、君島技師長と共に、隈なく案内して往年を追懷してくれたのであつた。感慨無量、斯る畏友を有する事を光榮として、此一文を草したのである。

矢野恒太序　大内民惠著
服部宇之吉
教育制度改革概論
（四六版二一一頁　定價五十錢　郵稅六錢）
行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の贊同枚擧に遑あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威
前京大總長小西重直博士
書を寄せて曰く、多年ノ御體驗ト實地ノ御試練ニ基ク眞摯憂國ノ大精神ヲ拜味仕リ不思感激ニ打メレ申候云々。

發行所　日本評論社　東京京橋三丁目
取次所　內鄉村報社

佐藤久太郎　武藤義造
菅波忠治　大越治七
山崎米太郎　濱崎善三郎
草刈長三郎　佐藤雅之輔
瑞八　大河原美津次
荻谷勝一　笹沼政雄　大津朝男

記の通り淨財を寄進した。金五拾圓、第三小學校。金五拾圓、本村助成會。金貳

産業等視察の爲、双葉相馬兩郡に出張したるが、得る處多大であつた由。

金參圓　樺太　武藤富次
汗ばまずからりとおはす老師哉
虚子

北海道通信 (三)

大内　さみ

昨日は當方節句なので、小豆で餡をとり、汁粉をつくつて食べさせましたので、大喜びでした。何しろ米粉の用意がないので、晝にはメリケン粉と葛粉團子、晩にはジャガ芋とメリケン粉の團子なのです（之は軟かで結構でした）今日も晝食に汁粉をつくつてやらうと思つて居ますが、さて今度は何團子にしたものかと思案中です。次に二三日前に私も笹刈りを手傳はうと、朝食の後始末をすまして八時頃家を出て、皆が何處に居るか大聲で呼ばうと思つた處が、近くの笹の繁みの中に、馬の頭が見えたので、わかつた樣なわけでした

人は皆笹にかくれて馬のみぞ
わつかに見ゆる我野原かな

如何に笹の丈が高いかが御相像つきませう。

私共が來た當時から、花と云へば福壽草がこゝかしこ、あたり一面に咲いて居ましたが、今尙可愛らしい姿を見せて、私共を喜ばせて居ります。そろ〳〵若草も萠え始め空も晴れ渡り、一郎などは夏シャツ一枚で、活動いたして居ります。

うちの地内に、水田になる個處がありますので、追々拓くことにしやうと話しあつて居ります。この邊でも相當水田を作つて居りますが、不作年でも反三俵位はとれるとの話です、そうなればしめたものです。まだ朝食の後片付けがすみませんので、此度は之で失禮いたします。皆さんによろしく。當地は何處の家でも忙しくなりました。二郎は元氣でせうれ、夏休みに來るのを待つて居ります。

（五月六日朝）

（民惠宛）

三十日附（四月）の御手紙四日に拜見、皆樣御無事の由、何よりの事と安心して居ります。當方も一同元氣、二少年も大そう役に立ちプラオの馬追も上手になり、清水へも馬に乘つて用達に行く樣になつたので、一郎も大に意を強うして居ります。二少年の將來もほんたうに頼母しう御座います。杉田から送つて下さつたお菜子は慥に頂戴、忽ちに平げて仕舞つたので一郎も私も、御禮を申し上げるのを忘れたのでした。おゆるし下さる樣お願いたします。

三十日（四月）は雪が降り、一日二日は、大風やら雨やらで、排水溝をつくつたり、馬小屋の修繕をしたりして、三日にいよ〳〵プラオかけを始めたのですが、遲々として進まず、どうなる事かと心配しましたが、翌日からは、馬も人も慣れたものと見えまして、昨日などは十二回も廻つた成績です。

一家總動員の活動
一郎はるばるとプラオを

価米粒比較表には、二少年も目をみはつて居りました。

岡村の叔母さんも、一週忌とは隨分早い樣な氣がいたします。常ちやん米ちやんを始め、小さい方達がどんなにか思ひ出して、淋しい氣持になつたことかと相像して居ります。

七年會、村報、社會事業、教育研究等々、一切合さいで、本當にお父さんも御忙しい事と存じます。佛壇の方も未だ出來ないので、御渡道はおくれられるとの事、一同大に待つて居ります。其頃には更に拍車を掛けて、稻黍大豆等の播種を終了いたしたいと思つて居ります。明日の午後からは、又新し

午後は、清水曹洞宗説教所の、成田良造師（石龍師御紹介の）が見えられ、二時から六時頃迄、話して行かれました。小生は中途で失禮して仕事にとりかゝりました。其後お母さんと二人で、二號地（二郎の豫定地）の方を見られたそうですが、櫻が咲いて居つたそうです。

私の澤の處にもあるのではないかと存じますが、何分暇がないので探檢する事が出來ません。二少年も毎日愉快に、時の段々と仕事に馴れて來たので、に働いて居ります。一日御預りしたの知らず以上は、立派な開拓者たらしゝむべく、お互に磨き合ひ、勵みあつて、叩ぎ上げるのが、小生の責任であり、行くべき道であると信じ居ります。

漢の小生のやる事ですから、お父さんが來られたら改めて見ていたゝくことなつて、ハツト氣かつき口なの四年に感情の少年くもよい事までも、時に偶々氣に掛つて、いはなくたつて見たり、一日は坑夫ばかりの種痘かなトロ押の世話役らしや焚火守るぞろ〳〵と坑夫長屋の寒念佛初風呂やごつた返しの坑夫風呂

石川虚城

薇とシキ着と屋根に干されけり
坑内や元日もなくボンブ番

岡本不味男

北風に撰炭婦ら頻かむり

炭坑景句抄（笛麥吟社）

高木撫山

炭坑を圍める山の初わらび
坑内に届けてやりぬ初櫻
小春日や添乳して居る撰炭婦

一家の仕事に居る時なぞは、平凡に思つて習慣になつてお願ひきます。實際我だと思ひます。今迄信じ

た事も、一々氣に掛つて、いはなくたつて見たり、時に感情の四事まで、ハツト氣かつき口なの

養ぐむ樣なこと心得ます。總べて修心で、今夜も十時近くなります。例の通りの、疲勞も加はつて、益々惡文亂筆何卒おゆるし下さい。二郎公にもよろしく御願いたします。

（五月十九日夜）

拜啓。此二三日天候頗る險惡でしたが、今日は漸く良い天氣となりました。澤にも山櫻が滿開で、全く見頃です。氏神國本社の用地か決定いたしましたら、周圍を櫻でかこめば、丁度杉田の稻荷山の如くなることなる存じます。又昨日は大變な日で、午後三時半頃、お母さんが我地内の流れに行つて、バケツで水を汲みあげました。ところ、驚く勿れ、一尾の鰻がはいつて來ましたので、これは正に吉兆と思ふ間もなく、六時半初春號が產氣づき、玉の樣な牝馬一頭！ニヒヒンと生れる欣喜雀躍！お母さんは初櫻が一つ開けやうなと申して居られますがお父さんはどうですか、何ぞ然るべく命名して下さい、母子共元氣です。

（五月二十五日夜）

拜復、御手紙並に禪的日本魂、平新報等々誠にありがたう御座いました。七年會も着々充實しつゝある由喜びに堪へません。當方も相變らず元氣で、昨日は約一町歩のプラオをかけ終り、本日からはハローにとりかゝりました。十四五日迄には、燕麥の播種を終了いたす豫定です。一昨日農會の技師が木下さんの御案内で來宅、松野場長からお話があつたので、來て見たと申され、お母さんを相手に休息して行かれました。

拓いて見るとなか〳〵見榮えがします。今度お父さんが來られたらあの笹藪が、こんなになつたかと驚かれる事と存じます。お父さんが來られる折、お母さん用の、十文のゴム靴、卷脚絆、手袋（軍手）をお願いたします。後略

（五月十日夜）

開拓記錄 (二)

北海道十勝北清水　大内一郎

拜啓。本日燕麥七反を播種終了いたしましてホツトしました。天地開闢以來、人手の入らない所を、畑にした氣持は、何共いはれません。二少年も頗る元氣で、北海道開拓農業の一通りを知つたわけで之から益々やるべく大に意氣込んで居ります。本日南瓜を、數ケ所に播種いたしました。此秋には、住宅の近邊を、黄金色にいろどられる事と存じます。お父さんは何かとお忙しい事であり、二郎公は淋しい事だらうと思ひます。それからお父さんが參られる時、大工道具チャウナの柄を一本お願いたします。チャウナはこちらで求めました。（五月十七日夜）

昨日は内郷村報、本日は御手紙並に四方叢書の一部、誠にありがたう御座いました。石龍師の御教訓も有り難く拜讀いたしました。物

内郷村報の六大使命

一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
二、村内公私各機關の活動狀況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
三、本村社會事業の徹底を期す。
四、村内の善事美行を表彰し、且之を奬勵す。
五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
六、餘力を以て、國民善事に當る。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社說は子孫に對する遺言を殺ぬるものなり。

昭和八年八月一日第三種郵便物認可

本紙定價一部金五錢一ケ年壹圓金五拾錢　郵送料共金四十八錢
寫眞基石祝部内郷村字宮浦二
發行所　内郷村報社
編輯發行兼印刷人　右會所　振替仙臺八四二〇
大内民惠
福島縣石城郡平町二丁目二九
印刷所　平活版所